

アートプロジェクト

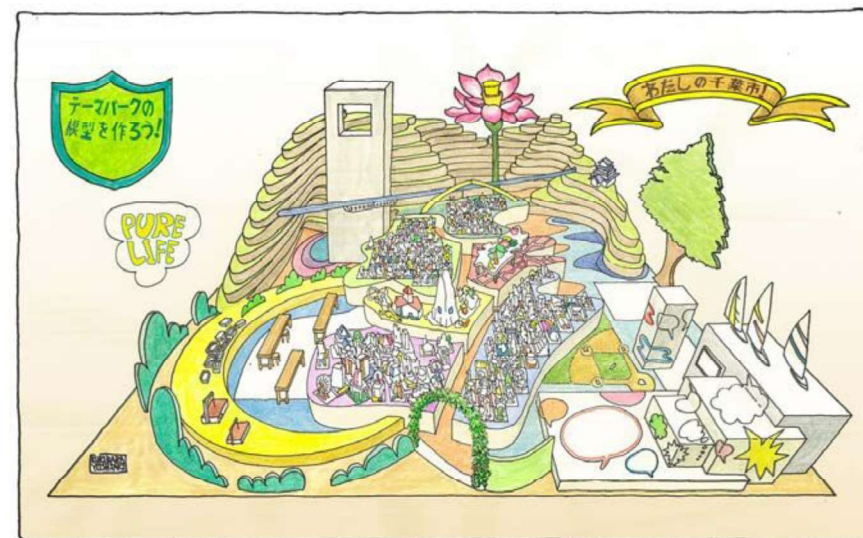
わたしの千葉市！テーマパークの模型を作ろう！

市民参加のかたち：ワークショップ・展示鑑賞

本プロジェクトでは、千葉市内各区のアフタースクールや各施設において、「千葉市をテーマにしたテーマパーク」を題材とした建築模型制作のワークショップを実施している子供から大人まで、様々な人にみんなに自慢したい千葉市の名所や、自分だけが知っている景色や自慢したいものを集めて工作する。普段、生活している自分たちの場所を改めて考えることで発見があったり、他の参加者の作品を見て新たな興味が生まれたりするワークショップである。このワークショップでは、実際に建築模型を作る材料や道具を使用する。主にスチレンボードや発泡スチロールなどの素材を使用し、普段の生活や授業では触れることの少ない電熱線などの道具を使う。

このワークショップの特徴として、栗原が千葉市をリサーチして発見した千葉市のモチーフをカットしてあるものを材料の一つとして自由に使える。下の画像は、カットデータのサンプルとなる。直接手で触れて、いっぱい使って、自由に発想して、スタッフと共に作り上げていく。完成された約200個の作品を一堂に集めて巨大な建築模型を作り出す予定である。みんなが見ている、考えている、感じている「千葉市」が集まり、千葉市の形を作っていく。

会場内にはワークショップスペースを設けたり、千葉市のいろいろなカテゴリごとのおすすめスポット紹介コーナーや、展示会場自体をテーマパークにした鑑賞、体験スポットなども検討中。ワークショップ参加者も来場者も、みんなキャストになって、このテーマパークを作り上げていく。



栗原 良彰

1980 年 群馬県生まれ、在住。東京藝術大学大学院博士課程修了。博士論文『《F.E.S.-Fantastic Eccentric Show-》新たな「場」作りから生まれる世界』。

アーティストは、自由の体現者であるべきだという考えを持ち、従来のアートの制度に捕らわれることなく、アートが社会に対してアクチュアルに機能することを目的に活動している。特定の表現スタイルにこだわらず、彫刻や絵画、インスタレーション、ビデオ、パフォーマンス、映画、ワークショップなど、あらゆる表現方法で制作活動を行っている。